

JA自己改革のシンカ

くらし・地域編

No.4
2025.2.6

大阪府 JA大阪市

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」



地域の活性化

准組合員の声をJA運営に生かす

都市化で低下した地域コミュニティを再構築する原動力に!

准組合員の意見をJA運営に活かすべく「准組合員モニター制度」をスタート

JA大阪市は、2021年度から准組合員がJA大阪市を知り、意見を発信し、運営に反映できる取り組みとして、「准組合員モニター制度」をスタートしました。同制度内でいただいた意見や要望のうち、すぐに改善できることは改善し、長期的に検討が必要なことは、改善に向けて検討しています。

准組合員の意見を聞くだけではなく、具体的に改善を実行するための制度

モニター活動は年4～6回程度行い、農業体験や施設見学などのあとに、参加者から感想や意見を集める場を設けています。第2期となる2022年度は、活動を4回実施し、延べ92人が准組合員モニター制度に参加。JAの概要や各事業についての説明、貸農園園場見学、田植えや稲刈り等の農業体験などを行い、アンケートや座談会で意見を集めました。すぐに改善できるもの、長期的な検討が必要なものなど、合計191件の感想や要望が寄せられました。



第2期2022年度 田植え体験

第2期2022年度准組合員モニター制度 改善に結び付いた事例

准組合員の意見

食農教育や文化活動など、JA大阪市はともよい活動をしているのに、なかなか情報が入ってきません。ホームページ以外で何か手軽に知ることができる方法はないでしょうか。

JA大阪市の回答

スマートフォンで情報を入手できるように、交流サイト(SNS)を利用した広報活動を展開したいと考えています。

具体的な改善

2023年8月、JA大阪市LINE公式アカウントを開設しました。イベントやキャンペーン、移動販売車のスケジュール、料理レシピなど、地域をつなぐさまざまな情報を発信しています。

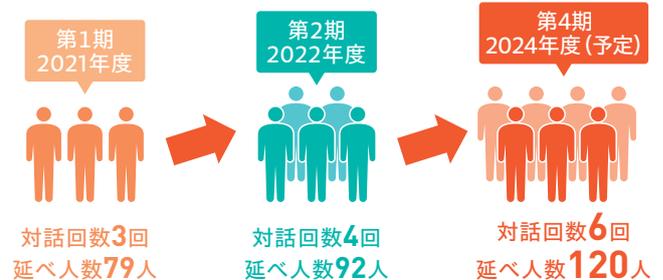


第2期2022年度 座談会

准組合員は、正組合員と共に地域農業や地域経済における発展を支えるパートナー

現在、JA大阪市では、都市化に伴う農地の減少、生産者の高齢化による農業者の減少などさまざまな課題がある中で、「地域密着の私たちJA職員が果たすべき役割があり、その解決策を模索する中で、准組合員の声をJAや地域に生かすべく誕生したのが准組合員モニター制度です」と田中聡組合長は本制度を始めた経緯を説明します。また、産地ブランド化を目指す「イタリア野菜普及活動」など、管内で栽培された農産物の付加価値を高める活動を推進しています。このようなJA大阪市の取り組みを准組合員が知る機会を積極的に設けています。今後は准組合員モニター制度だけでなく、准組合員がJA運営に参画できるような他の仕組みも整えていきます。

准組合員モニター制度の実績



問い合わせ JA全中 JA改革・組織基盤対策部 JA改革・組織基盤対策課 ☎03-6665-6240 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。